



研
究
主
題

学習に難しさがある 肢体不自由児への 目標設定と指導の重点化

文部科学省 平成28年度特別支援教育に関する実践研究事業
特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究(第1年次)

小・中・高の授業を公開



重度・重複障害児への
指導実践を紹介



“考える力”を育てる
授業づくりについて語り合しましょう

小・中・高等学校の
先生方も是非
ご参加ください！

期日

平成29年**2月2日(木)**・**3日(金)**

会場

筑波大学附属桐が丘特別支援学校

ご挨拶

筑波大学附属桐が丘特別支援学校は、文部科学省より今年度改めて「特別支援教育に関する実践研究充実事業（特別支援教育に関する教育課程の編成等についての実践研究）」の委託を受け、当該学年の目標・内容、進捗では学習が進みにくい児童生徒や知的障害を併せ有する学習に難しさのある肢体不自由児が、確実に学習を積み重ねることのできる指導の在り方を実践研究しています。数年間の取組により、「適切な実態把握」や「適切な指導目標・指導内容の設定」を行うためには、当校が教科ごとに作成した指導内容系統図やチェックリスト等の活用が有効である、という成果を上げています。また、各教科等において重点的に育てたい力は、次期学習指導要領改訂の方向性において新しい時代に必要となる資質・能力として示されている「考える力」であることも共通して見えてきました。「考える力」を育てるためには、指導者とともに児童生徒が「何を」「どのように」学び、「どのような力が身に付いたのか」を明確に持ちながら学んでいくことが求められています。

学習に難しさのある肢体不自由児が、主体的に学習に向かい、「考える力」を身に付けることのできる指導のあり方について、ご参会の皆様とともに熱い議論ができますことを当校職員一同楽しみにしております。ぜひともご参会くださいますようお願い申し上げます。



平成28年12月 筑波大学附属桐が丘特別支援学校長 川間 健之介

日程

2月2日 当該学年の学習が難しい児童生徒への指導

8:30	9:00			12:00	13:00	16:00
受付	全体会	公開授業 I	公開授業 II	昼食	講演会	ポスター発表

本校の小学部、中学部、高等部の授業を公開します。国語科、算数・数学科、社会科、理科、外国語科(英語)、保健体育科の授業を自由にご覧ください。

文部科学省初等中等教育局
特別支援教育課特別支援教育調査官
分藤 賢之 氏

各教科等の研究概要や授業実践について、ポスター形式で発表します。

2月3日 重度・重複障害児への指導

8:30	9:00			12:00	13:00	15:30
受付	提案 事例報告 グループ協議			昼食	全体協議 指導助言	

重度・重複障害児に対する国語・算数の系統性をふまえた授業づくりの考え方や、開発したツールの提案、活用事例紹介、グループ協議を行います。

グループ協議を受け、全体協議を行います。2日目の内容に関わって、研究協力者(飯野順子氏、山本昌邦氏)より助言をいただきます。

各教科等の内容

■国語科

「表現・理解するための思考の仕方」を身に付けることに指導内容の重点を置き、指導目標・指導内容に即した教材を選定することで、肢体不自由のある児童生徒が主体的に学ぶことのできる授業づくりのあり方を考えます。

■算数・数学科

育てたい「考える力」に焦点を当て、当校の児童生徒の実態に合わせた数学的な考え方の要素を整理してきました。必要な知識や技能を用いて、自ら考え、問題解決をする姿を目指した授業づくりについて考えます。

■理科

学習に遅れのある児童生徒には、どのように理科の指導を進めたらよいでしょうか。つまずきはどこにあるのでしょうか。あるいは、理科でどのような力を育てていくのでしょうか。教科の系統性と児童生徒の個別性から迫ります。

■社会科

社会科で重点的に育てたい力は「社会的な見方や考え方」です。子どもたちが社会的事象を比較したり関連付けたりして“主体的に思考している”授業づくりを日々模索しています。ぜひ共に“思考している子どもの姿”について語り合みましょう。

■外国語科(英語)

肢体不自由のある生徒の英語の学習におけるつまずきの傾向をとらえることと共に、どのように指導の重点化を図るのかについて取り組み始めました。研究は始まったばかりです。たくさんの先生方の生の声をお聞かせください。

■体育・保健体育科

肢体不自由のある児童生徒の身体状況は様々です。体育科として、12年間を通した指導内容の重点化の図り方、また、それをふまえた指導計画作成のあり方の整理に向けて、今年度は各学部段階における育てたい力について考えます。

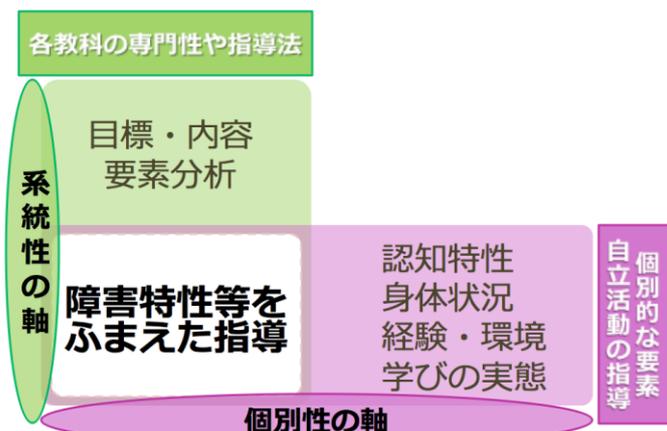
■重度・重複障害

重度・重複障害児が学習を積み重ねることのできる指導や生活を豊かにすることのできる指導を行うためには、何を基軸として指導内容を設定すればよいのでしょうか。国語や算数の視点を取り入れた授業づくりのあり方について、実践事例をもとに考えます。

研究協力者

国語	筑波大学人間系 国立特別支援教育総合研究所	教授 総括研究員	塚田 泰彦氏 長沼 俊夫氏
算数・数学	筑波大学人間系 千葉県立千葉聾学校	教授 教諭	熊谷 恵子氏 鈴木 淳一氏
社会	筑波大学附属小学校	教諭	梅澤 真一氏
理科	カンボジア王国・王立プノンペン大学	客員教授	間々田 和彦氏
外国語(英語)	筑波大学人文社会学系	教授	卯城 祐司氏
体育・保健体育	こども教育宝仙大学こども教育学部	教授	松原 豊氏
重度・重複障害	NPO法人地域ケアさぼーと研究所 横浜国立大学	理事長 名誉教授	飯野 順子氏 山本 昌邦氏

■「L字型構造」による授業づくり



桐が丘が提唱する「L字型構造」による授業づくりの考え方に基づいた指導の実践を紹介します

■「指導目標・指導内容の重点化」のために



指導の重点化を図るために桐が丘が開発したツールの活用事例を紹介します

講演会



文部科学省初等中等教育局
特別支援教育課
特別支援教育調査官

分藤 賢之 氏

学習に難しさのある肢体不自由児の指導において、新しい時代に必要となる資質・能力を育む「カリキュラム・マネジメント」の実現、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、おさえておくべき指導のあり方・考え方を中心にお話をいただきます。



参加申込

お申し込みは当校ホームページにて受け付けます
参加申込フォームに必要事項をご記入の上お申し込みください

ホームページ
アドレス <http://www.kiri-s.tsukuba.ac.jp/>

申込期限 平成29年1月30日(月)

会場案内



桐が丘特別支援学校
本校で行います

- 東京メトロ有楽町線・副都心線「小竹向原駅」下車 徒歩13分
- JR赤羽駅東口より国際興業バス・関東バス高円寺駅北口行き「上の根橋バス停」下車 徒歩8分

参加費

5,000円
(学生2,500円)

両日、「イトス」(社会福祉法人むくどり)によるパン販売がございます。
数に限りはございますが、昼食の際ぜひご利用ください。

<振込先>

■ 郵便振替

番号 00140-4-722070
加入者名 研究協議会

■ ゆうちょ銀行

支店名 〇一九(ゼロイチキュウ)店
種別 当座
口座番号 0722070
加入者名 研究協議会

<問い合わせ先>

筑波大学附属桐が丘特別支援学校(本校)
〒173-0037
東京都板橋区小茂根2-1-12
TEL (03)3958-0181 FAX (03)3958-3901
URL <http://www.kiri-s.tsukuba.ac.jp/>
E-mail kyougikai@kiri-s.tsukuba.ac.jp